



富谷市立日吉台中学校 令和8年3月10日 No.14

は る か



すてきな大人になるための3つの“あ”
「あいさつ・あきらめない・あいてのために」

卒業式が行われました 126名の生徒が巣立ちました

去る3月6日（金）に、第34回卒業式が厳かに行われました。ご臨席された富谷市長若生裕俊様をはじめ、来賓の皆様は、口をそろえて、「大変感動的でした」、「とても良い式に参列させていただきました」と、おっしゃっていました。

特に、河野来玲愛さんの送辞、佐藤有紗さんの答辞はすばらしく、卒業生も胸に多くの思い出が去来し、涙を誘っていました。

さらに、式の最後の「卒業の歌」は、卒業生の魂がこもった一曲になりました。指揮者の今野樹希さん、伴奏者の渡邊佳奈さんがまとめ上げた歌声は、会場全体を感動に震わせてくれたと思います。

参列された卒業生の保護者の皆様、ご来校本当にありがとうございました。

次のステージでもお子様を支えてあげてください。よろしく申し上げます。本当におめでとうございました。



卒業生入場



緊張の面持ちの卒業証書授与



若生市長・PTA会長からの御祝辞



名残を惜しむ送辞



涙を誘った答辞



笑顔で卒業合唱をまとめました



卒業合唱を支えた伴奏

校長式辞

卒業生126名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。本日ここに、令和7年度 富谷市立日吉台中学校 第三十四回卒業式を挙げていただきますことを、大きな喜びといたしております。

本日は、御多用の中、富谷市長 若生 裕俊様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。そして、何よりも、これまで深い愛情で子ども達を支え、成長を見守ってこられた保護者の皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。皆様のご理解とご協力なくして、今日のこの晴れの日はありません。

卒業生の皆さん、校舎から北西に望む、雪をいただいた七ツ森。厳しい冬の中にあっても揺らぐことなく立つその姿は、やがて訪れる春を信じているかのようです。皆さんの三年間も、また、その姿と重なるのではないのでしょうか。部活動では、仲間と共に汗を流し、勝利を目指して努力を重ねました。校内合唱コンクールでは、心を一つに歌声を響かせました。修学旅行での東京ディズニーランドでの笑顔。その全てが、皆さんの確かな成長の証です。

さて、皆さんがこれから歩む社会は、予測が困難な時代です。技術革新は急速に進み、価値観はより多様化し、世界は常に変化しています。だからこそ、自らの問いを立て、深く考え、他者と協働する力が必要です。そして変わらぬ心の軸となるのが「至誠」です。「至誠」とは、困難から逃げない心、自分に正直であること、他者を思いやる姿勢、最善を尽くし続ける態度等の意味です。幕末の教育学者 吉田松陰は「至誠にして動かざる者は 未だこれあらざるなり」と述べました。真心を尽くせば、人の心は必ず動くのです。

さらに私が尊敬する先生から教わった言葉があります。

「夢あるところに光あり 希望あるところに喜びあり」夢をもつからこそ光に向かって前進し、希望を抱くからこそ人生に喜びが生まれます。

私事になりますが、「夢や希望」をもつことが困難を乗り越える力になることを学びとる出来事がありました。それは、東日本大震災後のことです。開催予定の中総体の地区大会や県大会が行われるか危ぶまれました。「震災後の悲惨な状況で開催は無理でないか」という意見が多くありました。しかしその中で「この様な悲惨な状況だからこそ、生徒たちから夢や希望を失わせてはならない」と、開催に尽力なされた先生方がいらっしゃいました。見事にいろいろな困難を乗り越えながら開催することができました。生徒たちに夢や希望をもたせることの大切さを学びとることが出来ました。

開催後、野球部顧問をしていた私の心には、当時、開催に尽力なされた先生方の「生徒たちに夢や希望をもたせたい」という思いと、震災で天国にいる仲間の夢や思いを背負っていく事が深く胸に刻まれました。そして、私のチームでは「夢や希望をもって、誰かのために何をしよう」と言う合い言葉が生まれました。私も生徒たちも「夢や希望をもち感謝して活動する」ことをより学びとった瞬間でした。コロナ禍でも同じようなことがありました。しかし、「夢や希望をもつ」ことは、困難を乗り越えるのです。

やがて七ツ森の雪は解け、春が訪れます。皆さん一人一人の中にも、確かな「夢や希望」を抱いた春が芽吹いています。

結びになりますが、卒業生の皆さん、至誠の心を持ち、夢と希望を抱き、困難に立ち向かいながら最善を尽くす人として、堂々と未来へ歩み出してください。ここにいる日吉台中学校の教職員は、皆さんを応援し続けます。百二十六名の前途に、限りない光が差し込むことを確信し、力強く送り出し、校長式辞といたします。

羽ばたけ 日吉台中学校の卒業生。

令和8年 3月6日

富谷市立日吉台中学校長 遠藤 克久



式辞を送る遠藤校長先生



卒業合唱の全風景



3学年担当の先生方

答辞

厳しい寒さも和らぎ、桜の蕾がふくらみ始めています。そんな春の訪れとともに、私たち卒業生126名の旅立ちの日がやってまいりました。こうして多くの人に見守られながらこの日を迎えることができ、大変嬉しく思います。3年前の春、袖の余る制服を身に纏い、まだ見ぬ新しい仲間との出会いに、少しの不安と期待に胸に抱きながら、私たちはこの日吉台中学校に足を踏み入れました。入学当初の私たちは幼さが残り、失敗も多くありました。中学校という環境に慣れずに、少しやんちゃをしてしまった時期や、勉強についていけず、落ち込むこともありました。その度に、人生の先輩として、正しい方向へと導いてくださった先生方や先輩の背中はとても大きく、私たちに、中学生としての心構えを教えてくださいました。

先輩と呼ばれ、笑顔で手を振られるたびに、心の中でガッツポーズをしていた2年生。その反面、世代交代のため、部活動や委員会活動では、一つの組織を束ねるという責任ある立場につくことが増え、自分の在り方に戸惑うこともありました。秋には、職業体験のため、スパリゾートハワイアンズを訪れました。挨拶を交わすという何気ない動作のなかに、いくつもの作法や目につかない仕事の多さに驚きを隠せませんでした。そこでは、「働く」ことの厳しさややりがい、おもてなしの精神を学びました。さらに、将来の可能性を広げることのできた、貴重な体験となりました。

全ての行事が「中学校最後」となる3年生。4月には、待ちに待った修学旅行がありました。計画通りに進まず、班のみんなと頭を抱えながらも、自分で考え、行動する力が身につきました。眠るのも惜しむほど、あっという間に過ぎた三日間は、今でも一生忘れられない思い出として、深く胸に刻まれています。約3年間、仲間と励ましあった部活動。自分の弱点に正面から向き合い、ひたむきに努力する仲間の姿は、失敗から目を背けがちだった私の心を奮い立たせ、「自分も変わらなければならぬ」と強く思わせてくれました。それぞれの気持ちを受け入れられずに対立してしまったこと。立ち塞がる大きな壁を前にして、立ち止まってしまったこと。それでも、何度でも顔を上げ続けたのは、苦楽をともにした仲間がいたからです。お互いに競い合い、高め合い、支え合って、私たちはともに成長してきました。全力で挑んだ中総体では、試合終了のブザーが鳴り終えるまで、諦めずにプレーしたからこそ、溢れた笑顔と涙がありました。中学校最後の行事となる合唱コンクール。1年生の頃は到底追いつかないであろう先輩方の美しい歌声に圧倒されました。あのときに感じた憧れを越えようと、各クラスが最優秀賞を目指して練習に励みました。始めは気持ちも歌声も統一性に欠けており、心の距離を感じたこともありました。意見交換する機会を増やし、練習を積み重ねるごとに、合唱が完成するのを実感しました。当日、まほろばホールでは、3年生の意地と誇りをかけて、各クラスが素晴らしい歌声を響かせることができました。強い絆が生まれ、クラスが一つにまとまった、最後にして最高の行事だったと言えます。

在校生の皆さん。私たちは、先輩としてあるべき背中を見せることができただけでしょうか。行事や部活動では、皆さんの一生懸命に取り組む姿に、何度も励まされました。そんな皆さんなら、より良い日吉台中学校を作り上げられると、信じています。これからもずっと変わらずに、皆さんの活動を応援し続けます。

校長先生をはじめ、多くの先生方。お世話になりました。不安を抱えている時、悩んでいる時、同じ目線に立って話を聞いてくださいました。学習面だけでなく、思いやりの心、物事に真剣に取り組む姿勢など、生きていく上で大切な考え方を学びました。一人一人に真摯に向き合ってくれた先生方のおかげで、私たちは、ここまで成長することができました。本当にありがとうございました。

そして、私たちを一番近くで見守り、支えてくれた家族。毎日の「いってらっしゃい」「おかえり」。その何気ない一言はどれだけ私たちの力となり、安心となっていたでしょうか。これからも、感謝の気持ちを忘れずに、自分の力で歩いていけるよう、日々を大切に積み重ねていきたいと思えます。未熟で、反抗してしまうことがあるかもしれませんが、私たちの成長を温かく見守っててください。

最後に、この3年間、日に直すと約千日間もの時間を共に過ごし、今ではそばにいたことが当たり前な存在となった3年生のみんな。たくさん笑って、励まし合って、時には泣いて、喜びを分かち合ってきた仲間と出会えたこと、何よりの幸せです。

友 さよならそしてありがとう 再び会えるその時まで どこまでも続き 輝いている

同じ空の下 どこかで私たちは いつも繋がっている

きっとこの先、どんな困難に直面しようとも、ここで過ごしてきたかけがえのない日々が私たちを強くしてくれるのでしょうか。そんな確かな繋がりを紡ぐことができた3年間でした。明日からは高校生へのゼロ学期、私たちはこの日吉台中学校の卒業生としての誇りを胸にそれぞれの未来を切り拓いていきます。ここでの出会いと学びを力に変え、春の日差しのような希望を胸いっぱい抱きながら。

結びに、これまで支えてくださった全ての方々に心より感謝を申し上げ答辞とさせていただきます。

令和8年3月6日 卒業生代表 佐藤有紗

送辞

寒さの中にも、暖かな春の日差しが感じられる季節となりました。本日、晴れて日吉台中学校を卒業される3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今、ここで先輩方を前にすると、私達が初めて出会った対面式のことが思い出されます。当初の私達は、新しい環境に緊張し、不安でいっぱいでした。けれども先輩方は誰よりも私達に寄り添い、励ましてくださいました。その優しい声、温かい笑顔は何よりも私達を安心させ、新しい中学校生活のスタートを無事に切ることができました。

中学校で始まった部活動。初めての経験となる私達には、何をすればいいんだろう、先輩方や仲間たちとうまくやっていけるだろうか、などの戸惑いや不安が多くありました。けれども先輩方の温かい歓迎、優しい言葉にそんな不安は取り払われました。先輩方は私達にとって目標であり、憧れの存在でした。技術面で優しく教えてくださったり、悩んだ時には相談に乗ってくださったり、時には一緒にふざけて笑い合ったりと、私達の心の支えとなっていました。

初めての3学年合同で取り組んだ運動会。先輩方が盛り上げてくださったおかげで私達は、勝敗に関わらず、最後まで全力を尽くして、楽しむことができました。より良い思い出を作るために団結し、協力しあう姿は私達にとって何よりも心強く、輝いて見えました。

合唱コンクールでは、ソプラノの繊細で透明感のある美しい高音、アルトの滑らかで奥行きのあるハーモニー、テノールの躍動感を与えてくれる力強い低音、全てを感じることができ、どのクラスからも最優秀賞に向けての強く、熱い想いが伝わってきました。

生徒会活動では、全校生徒の代表を担う私達新執行部に、優しく、丁寧に仕事内容を教えてくださいました。学校の顔となる生徒会執行部の姿は、とてもかっこよく、頼もしい存在でした。そんな先輩方は、私達新執行部の目指すべき目標となっていました。

先輩方は、いつも学校のためを思い、積極的に活動していました。その姿は私達をいつも勇気づけ、支えてくださいました。そんな先輩方が卒業されるのはとても寂しく、不安が残ります。しかし、先輩方から教わったこと、学んだことを胸に、日々努力し、この日吉台中学校の伝統を受け継いでいきます。

この春から、皆様はそれぞれの道へ進んでいかれます。夢への道は、険しく、簡単なものではないと思います。ですが、この学校で過ごしたかけがえのない仲間との時間、思い出が皆様を支え、夢に向かう希望の光になると信じています。

卒業生の皆様の未来が明るく、輝かしいものとなるよう心からお祈り申し上げ、送辞といたします。

令和8年 3月6日

在校生代表 河野来玲愛

おめでとう

去る3月7日（土）に東京上野の精養軒において、「第29回図書館を使った全国調べる学習コンクール」の表彰式が行われました。本校1年3組の半澤未羽さんが、「優秀賞・活字文化推進会議賞」を受賞しており、授賞式に参加しました。全国で表彰されることは、なかなかないことです。本当におめでとうございます。



左：受賞参加者の集合写真

中：受賞作品
「ハーフと共に生きる」

右：受賞の盾と半澤さん

お知らせ

令和8年3月31日をもちまして、長年同窓会長を務めていた、太田博昭氏がご勇退なされることとなりました。長年、本校同窓会のためにご尽力くださり、まことにありがとうございました。令和8年4月からは、高橋匠氏が就任なされます。今後とも同窓会をよろしく願い申し上げます。